

2017年9月19日

学生活動担当理事講演会(日信工業株式会社 川上 洋生 氏)
私の「車」歴 そこから覗き見る「自動車産業」
実施報告書

企画担当責任者

(公社)自動車技術会関東支部 学生自動車研究会

日本大学大学院理工学研究科 M2

委員長 松園 俊介

1. 実施要綱

● 日程

2017年7月29日(土) 15:00~16:30

● 開催場所

日本大学理工学部(駿河台)7号館 752教室

● 参加者数

17名

[内訳] 学自研委員 15名 理事 OP 2名

● 目的

本企画は学自研委員同士が集まる委員会開催日を活用し、主に将来自動車産業に関わる学生に向けて理事の実経験をもとに講演会を開催するものである。学生委員と学生担当理事との相互理解を深め、更なる学自研の活性化と将来の自動車産業を担う学生の糧となるような学びの機会にすることを目的とする。

● 講演者

学自研担当理事

日信工業株式会社 開発本部

川上 洋生 氏

<Profile>

‘82年：法政大学 工学部機械科卒 本田
技研工業入社 技術研究所車体
設計配属

機種 PL、商品企画室

‘10年：日信工業 開発本部

● スケジュール

時間 行動

15:00 ご講演

16:00 質疑応答

16:30 解散

17:30 懇親会

20:30 解散

2. 講演内容

2.1 自動車の「マーケティング」

川上さん自身が20歳のころから37年間、12台乗り継いできた愛車たちを「なぜこの車を選ぶに至ったか」という目線でマーケティングの仕組み次にお話しいただいた。

「独身期、バブル期、子育て期、夫婦期と生活スタイルが変わっていく中で、その人に合った車を作ることがとても重要である。そして、それらのラインナップはライフスタイルに連動するように緻密に『マーケティング』され準備されている。その例として日本最初の自動車といわれる T 型フォードとホンダの軽自動車 N-Box を例にラインナップの多さを比較すると、T 型フォードでは3種類~5種類、せいぜい10通りほどだった車型が N-Box になると単純計算しても34万通りもある。この膨大な組み合わせで発生した『亜種』によって顧客の細かいニーズに込んでいる」とのことだ。生活の形態に合った車を実現するにはコストはもちろんのこと、細かなオプションによって一人ひとりに合わせたデザインや機能を把握し、想定しておく必要があるのだと感じた。

2.2 デザイナーとアーティストの違い

自身の愛車であるアルファロメオ・156を「愛人」と表現するほど大切に乘られている。「故障はあるけども、直して乗ることは苦ではない」と言っておられていたのが印象深かった。その156の全体デザインを任されていたワルター・デ・シルヴァというデザイナーを例に、「デザイナー」と「アーティスト」の違いは何かを解説していただいた。ワルター・デ・シルヴァはアルファロメオ以外にも’02年にアウディ、’07年にフォルクスワーゲンなどのデザインを手掛けていた人物だそうだ。

「そもそもアーティストとは、芸術活動をする人を指し人に合わせたものを作るというよりは、自身の創作活動を通して世に問うもので

ある。

逆にデザイナーとは、人が欲するものや形をマーケティングや仕様などを考慮したうえで形にしていく仕事である。」。(図1参照)

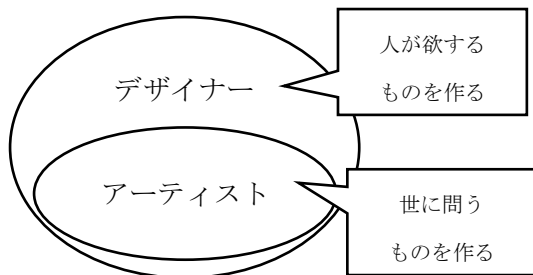


Fig.1 デザイナーとアーティスト

車としての機能を損なわず、消費者に選ばれるようなデザインを追求する両方のバランスが「売れる車」を生み出す一要素なのだと感じた。

そのほかにも、自らの海外体験から「日本では空港の入国審査で職業を聞かれたときに『会社員』と答えることがあるが、アメリカの空港では『会社員』という職業の答え方はない」など、働き方に対する日本と海外における考え方の違いについてもお話いただいた。

2.3 未来のエンジニアへアドバイス

各国の報道の違いや発光ダイオードの発明の過程、自身のお仕事を例にイノベティブな思考による技術開発の大切さについてのお話いただいた。

現在お勤めされている日信工業では二輪・四輪の制動装置を主に製造している。その上で今日のブレーキにおける進化の一端を事例に次のように話す。「昔はブレーキの機械部品にかかるコストが大半を占めていたが、電動パワーステアリングや横滑り防止装置、4輪独立制御のブレーキなどの装置の『進化』により今では機械部品よりも、そのようなブレーキセンサー類のコストが大半を占める」というのだ。その上で、「どの製品においても新たな技術による『進化』と『衰退』が伴う。そこで次の進化につなげる為に、広い視野からの経験や知識を得て、分野を超えた技術を『思考の棚』にしまっておくことが、比較したり新しいひらめきを得たりするヒントになる」と仰っていた。

2.4 自動車の未来予想図

EV や自動運転、そしてシェアード (共有) の考え方によりにより自動車業界に革命が起こりつつあるといわれる。その上で川上さんは「日本でも官民 ITS 構想や AI の進化により自動車に占める分野が変わっていけば自技会の会員にも車用品メーカーとして Google や

Intel, NTT が中心となって参加する未来も近いかもしれない」と話す。

3. 参加者の感想およびアンケート結果報告

3.1 アンケート結果

講演会後に講演会についてのアンケートを行った。

Q.この講演を何で知りましたか？

有効回答率 53%

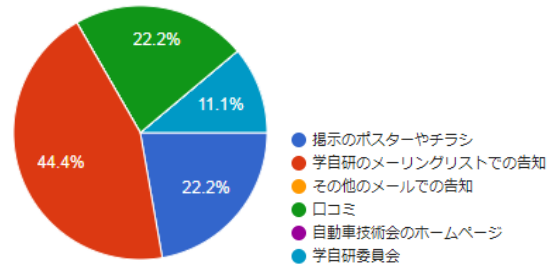


Fig.3 アンケート結果の内訳

【アンケート結果】

アンケートの結果、講演会の告知は学自研のメーリングリストで知る方が 44.4%と多く、次いでポスターやチラシ、ロコミが占めた。今回、ホームページを見て参加した方がいなかったため今後、学自研のホームページや Facebook のアクセスをしてもらおう努力が必要と感じた。

3.2 参加者からの感想

参加者から寄せられた講演会の感想を以下に示す。

- ① 今後の自動車産業が自動運転やシェアード、EV などが進みこれからの 5 年間で大きな変化がおきることや自動車は趣味や嗜好の用途や生活に合わせたものなどがあることなどとても参考になりました。貴重な講演ありがとうございました。
- ② クルマが誕生してから今に至るまでの変遷について、ポイントを絞って考えることが出来た。特に亜種の発生に関しては、新たなサービスが日々生まれている中で大切にしたい概念であった。
- ③ 常に広い分野から情報を得て、その情報の自分のいる分野や立ち位置における意味を考える努力をしていることが感じられて、見習うべき部分が多くあったと思います。
- ④ NVIDIA や intel, Google のような半導体メーカーや IT 企業を自動車技術会に入れな

いと時代の足を引っ張ることになるという話が非常に共感しました。

- ⑤ 将来的に IT 企業に勤めるつもりの方としては、今後意識していきたいと思った話でもありました。
- ⑥ 貴重なご講演ありがとうございました。楽しく様々な知識を得ることができました。ありがとうございました。
- ⑦ 自分自身とは違った視点での発表は、とても面白い講演会でした。沢山の本を読むことによって自分の知識が増えるとおっしゃっていたので、見習っていききたいと思えます。
- ⑧ 川上さんの感じた自動車の発展から今後の自動車の未来を考えさせる深い講演でした。特にバイクのように趣向性の強い車と実用的な車の二極化となるのではないかという話は共感ができました。今までは EV や自動運転と言った技術ばかり注目していたが今後は自動車の楽しさを高める技術やアイデアも注目していこうと思えます。

3.3 講演会に対する感想や要望

以下に講演会開催に対してお寄せいただいたご意見や要望を示す。

- ① 今回のように他の理事の方にも、車との繋がりについてお話を聞きたい。
- ② 自動車業界の動向を広い知見からお話ししていただき、将来エンジニアとして社会貢献したいと思っている自分にはとても良い刺激となりました。
- ③ 講演後にいろいろな質問も出ていい講演会になったと思いました。面白いことを話す人の話は自ずと面白くなるため、理事の方々が好き勝手に話す講演会を割と期待しています。

4. 感想

自動車業界が変革期に来ていると言われていたが、その現状を突きつけられたお話だった。IOT や AI、自動運転、電気自動車といった電気電子分野の大きな進化により、産業を牽引してきた自動車業界が今後どのような立ち位置になっていくのか、そしてマーケットそのものがシェアリングエコノミーによりどのように

変化していくのか注視していく必要があると思った。

そして、これからのエンジニアは自動車だけでなく、既出の技術だけにとらわれない「未来の自動車」に対するビジョンを新しい切り口から創造する能力が、今後いま以上に求められていくと感じた。

5. 総括

今回初めて理事講演会を企画し、生の自動車業界の話題を第一線で働かれている川上さんからお話いただくことができ、今後働いていく上で必要となる視点を養うことができたと思う。学生参加者の積極的な鋭い質問や、講演を真剣に聞く眼差しがとても印象的だった。懇親会の開催も含め理事と委員の相互交流としても一定の成果があったと考える。

今後、本企画に続き理事、OP の方にもご協力いただき、開催プロセスの醸成や委員の企画推進力、意欲の向上に繋がっていくように努力したいと考えている。



Fig.4 講演会の様子

6. 謝辞

今回は急なお願いにもかかわらず、ご講演いただきありがとうございました。今後自動車業界で働く委員も多いかと思いますが、自動車の売り方やその目線、変革期とも呼ばれる自動車業界の今を知ることができ大変有意義講演会でした。ありがとうございました。